大阪市長　磯村隆文殿

大阪府知事　横山ノック殿

第３０回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会

釜ヶ崎反失業連絡会

共同代表　本田哲郎

山田　實

野宿生活者対策の遅滞につき要望

　大阪府・大阪市の努力により、政府の雇用創出基金交付金を活用しての事業が、釜ヶ崎では開始され、西成労働福祉センターに登録している高齢労働者は１ヶ月に一度の就労から１０日に一度の就労へと改善された。就労数はわずかとはいえ、年齢に関係のない就労機会も提供されるようになった。

　行政の努力、成果は大いに評価したい。

しかしながら、残された課題は大きい。季節の寒さが深まる中、多くの野宿生活者が長期にわたり公園や路上に放置され続けている。就労対策は更に追求拡大される必要があるし、寝場所対策は早急に拡大されなければならない。

　努力と成果の上になお一層の努力を積み重ね、抜本的解決により一層近づくよう、下記を強く要望するものである。

記

1. 大阪府は来年度に於いて、雇用創出基金を使った、釜ヶ崎（あいりん地区）労働者に直接反映する雇用創出事業を大阪市並の規模に拡大されたい。
2. 大阪市は、来年度に於いて雇用創出事業で雇用される人員の拡大を検討すると共に、大阪市単独事業部分の拡大を来年度に於いても引き続き実施されたい。
3. 来年３月末以降の１０００名以上の「寝場所対策」について、府市協調し、責任を持った見通しを明らかにされたい。
4. 自立支援センターの開設めど・進行状況を明らかにされたい。大阪市の巡回相談員の稼動状況や大阪府の労働相談体制の整備状況もあわせて明らかにされたい。
5. 越年対策については、規模を昨年以上とし、実施期間を大幅に延長されたい。また、整理券配布の一時中断など受付前の段階での混乱を避ける配慮や面接時における恣意的な選別、実情に合わない扶養親族の追求などを行わないこと。
6. 例年の越年対策実施前巡回相談保護について、具体的実施方法・規模について明らかにされたい。

以上